

令和3年（第66回）秋田県文化功労者

（年齢順、敬称略）

文	芸	（短歌の普及・人材育成）	藤田和平
美術・工芸		（大館曲げわっぱの振興・普及）	佐々木悌治
民生・社会福祉		（出稼ぎ者の健康維持）	天明佳臣
産	業	（観光振興、地域活性化）	山本次夫
産	業	（国際経済交流の推進）	齊藤健悦
農林業・漁業		（農業振興、農業団体指導）	船木耕太郎
保健衛生		（医療技術向上、人材育成）	山本文雄
技	芸	（邦楽の普及、 後進の指導・育成）	鈴木鈴秋



短歌の普及・人材育成

ふじ た わ へい
藤 田 和 平

(93歳)

住 所 秋田市

昭和46年から秋田市歌人協会の運営に関わり、平成10年からは秋田県歌人懇話会の事務局長を、平成24年から27年までの約4年間にわたり会長を務め、県内歌人の指導や各短歌会の融和に尽力し、県内歌壇の隆盛に大きく貢献した。

また、短歌結社「白路」同人として活躍しながら、長年にわたり総務委員や秋田県支部長を務めて指導的役割を果たし、優秀な歌人の輩出に尽力するとともに、朝日新聞秋田版歌壇選者を務め、また歌集を発行するなど歌人として優れた業績を残している。

さらに、平成元年から30年まで秋田刑務所の篤志面接委員や短歌クラブの講師を務め、受刑者の更生に努めた。



大館曲げわっぱの 振興・普及

さ さ き てい じ
佐々木 悌 治

(90歳)

住 所 大館市

木工会社在职中に伝統工芸品「大館曲げわっぱ」の機能美に魅了され、曲げ物職人に転身してからは長年にわたり技術の研鑽に努め、製品の完成度を追求し、平成11年には大館曲げわっぱ伝統工芸士として認定を受け、平成17年には現代の名工として厚生労働大臣から表彰された。

本業の傍ら、大館曲げわっぱ協同組合の役員として、自ら率先して体験講座の講師を引き受け、大館曲げわっぱの素晴らしさやものづくりの楽しさを市民や観光客など幅広い層に伝え、大館曲げわっぱの普及啓発に大いに貢献した。

その積極的な活動が、大館曲げわっぱ伝承の機運を醸成し、体験型観光の目玉となる大館曲げわっぱ体験工房設立へとつながり、同体験工房のインストラクター養成を一手に担うなど、伝統産業の振興と普及に果たした役割は計り知れない。



出稼ぎ者の健康維持

てん みょう よし おみ
天 明 佳 臣

(89歳)

住 所 東京都大田区

出稼ぎ先での病死や事故死が社会問題となっていた中、昭和62年に秋田県出稼組合連合会の有志とともに出稼ぎ者の健康管理のための訪問健診事業を提起し、勤務する診療所が同連合会から主管医療機関に指定されてからは、本県市町村からの委託事業として健診を実施した。

また、他の医療機関と共同で「首都圏出稼ぎ者健康管理ネットワーク」を形成し、平成4～5年には医師13人、スタッフ27人の体制を構築して健診事業を展開し、健診受診者が最大で280人を超えるなど、多くの出稼ぎ者の健康を支えた。

その後、委託事業が終了する平成21年までの23年に渡って訪問健診に従事し、出稼ぎ王国と言われた本県出稼ぎ者の健康維持に尽力した。



観光振興、地域活性化

やまもと つぎ お
山 本 次 夫

(85歳)

住 所 男鹿市

男鹿温泉郷で温泉旅館を経営する傍ら、男鹿市観光協会の役員として、「ナマハゲ伝導士」制度の創設、「なまはげ太鼓」の活動や男鹿温泉郷の交流拠点となる施設の建設などに大きな役割を果たしたほか、ハタハタの観光活用や男鹿・イタリア魚醤フォーラム開催による男鹿の食文化の世界に向けたアピール、ジオパーク認定に向けた見学会や講演会の開催などにより交流人口や関係人口の拡大を図り、男鹿半島の観光振興に貢献している。

また、県観光連盟の理事として、県内における満足度の高い観光旅行の普及発達を促したほか、平成27年に国内で15番目となる秋田県温泉協会の設立に中心的な役割を果たし、昨年には同協会会長として、10月2日を「温泉の日」と定め、コロナ禍で苦境にある県内温泉業界のPRに精力的に取り組むなど、本県の観光振興と地域活性化に尽力している。



国際経済交流の推進

さい とう けん えつ
齊 藤 健 悦

(75歳)

住 所 井川町

平成16年の社団法人秋田県貿易促進協会設立当初から理事を務め、海外見本市や商談会への出展、海外ミッションなどの事業に積極的に参加するとともに協会の円滑な事務の執行に努め、他の役員とともに協会の礎を築いた。

会長就任後は、インドネシアやタイ、ベトナムへの経済ミッションを実施するほか、ベトナムのビンフック省企業協会との間で経済交流に関する覚書を締結するなど、成長著しい東南アジア諸国との経済交流を推進した。

また、秋田県電子工業振興協議会では国際部長や会長などの要職を歴任し、海外での視察研修を企画するなど、会員企業の国際化意識の向上と海外展開の推進に努め、県内企業の貿易取引の拡大や国際化の推進に尽力した。



農業振興、農業団体指導

ふな き こうたろう
船 木 耕太郎

(73歳)

住 所 秋田市

平成29年から令和2年までJAグループ秋田のトップとして、複数存在していた要改善JAの早期解消を図るとともに、低金利政策の長期化や人口減少・高齢化が進展する等厳しい環境下においても継続的に農業振興を図るための究極の自己改革とも言える「県1JAを目指す組織再編構想」をまとめ上げるなど、強力なリーダーシップのもとJAの発展に尽力した。

また、農業産出額東北最下位からの脱出を掲げ、行政と連携した園芸メガ団地事業の導入支援に努め、青果物の生産拡大を推進するとともに、平成30年産米からの行政による「生産の目安」導入においては、JAグループ内での新たな制度のもとでの「需要に応じた米生産」の徹底に努めて価格安定に寄与するなど、本県農業の発展に大きく貢献した。



医療技術向上、人材育成

やま もと ふみ お
山 本 文 雄

(73歳)

住 所 秋田市

秋田大学医学部心臓血管外科学講座教授に着任以降、それまで低調であった手術件数を全国レベルにまで大幅に増加させたほか、県内では不可能であった小児心臓手術の確立に尽力し、心臓血管患者の治療・救命及び地域医療体制の構築や研究水準の向上、有為な医療人材の育成に多くの功績を残している。

また、秋田大学学長として、「学生第一」のスローガンを掲げて教育・研究施設の整備・充実を図ったほか、本県の課題に対応するため、高齢者医療先端研究センターや自殺予防総合研究センターを設置するなど、自治体や各種団体、企業等と連携を図りながら解決に尽力するとともに、新型コロナウイルスの感染拡大への対応において陣頭指揮を執り、県民へのワクチン接種に積極的に貢献するなど、卓越した指導力を発揮している。



邦楽の普及、 後進の指導・育成

故 すず 鈴 き 木 れい 鈴 しゅう 秋

(本名 すずき 鈴木 どうゆう 道雄)

(享年71歳)

住 所 湯上市

昭和50年に秋田市及び天王町（現湯上市）に尺八教室を開き、尺八を含む邦楽全般の普及と振興に努めながら、平成7年から20年余りにわたって秋田県三曲連盟会長や顧問を務め、加盟各流派の融和と邦楽の裾野拡大に取り組んだほか、県内の小中学校で児童生徒への実技指導や、秋田県総合教育センターで音楽教員へ講義を行うなど、邦楽の理解を深める指導に熱意を注いだ。

平成17年からは「秋田子ども和楽器合奏団」を主宰し、就学前の幼児から児童生徒を中心に、尺八や箏、笛や和太鼓の演奏指導を通じて自国文化に誇りを持ち、礼節を重んじ、年長者が年少者を思いやるなどの情操の涵養を図るとともに、その高い演奏技術が認められ、県内だけでなく国外で数々の公演を行うなどにより、邦楽の普及や後進の指導・育成を通じ、本県の芸術文化の向上と発展に貢献した。